

平成28年度の学校経営計画 各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

\*下線は今年度新たな取り組み

岡山県立高梁高等学校

No.1

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価	
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価
①生徒の進路実現を目指した指導力・授業力の向上	教務課	・科目選択について各教員が十分に留意点を把握できるように資料作成などを工夫するとともに、特別な選択者に対する教員間の共通理解が図れるようにする。	・留意点をまとめた資料(Q&Aのようなもの)の作成 ・活用ができ、最終科目選択が生徒・教員の十分な理解のもとでなされる。	・科目選択に関する留意点をまとめた資料(Q&A)の作成を現在進めている。教育課程の変更もあるが、来年度の科目選択に向けて、各教員が十分に留意点を把握できるように資料の作成に努めたい。	B	・科目選択に関する留意点をまとめた資料(Q&A)の作成を現在進めている。教育課程の変更を踏まえ、3年間見通した科目選択に向けて教員・生徒が十分に留意点を把握できるように資料作成に努め、新年度に配付したい。	B
	進路課	・国公立大学個別試験の問題研究を継続して行う。岡山大、阪大に加えて九州大を研究する。 ・研修会/研究会などに参加することで新課程入試に関する資料(入試結果と今後の動向)を収集し、伝達講習する。	・岡山大学入試問題解答解説集が夏休み前に発行できる。大阪のファイルができる。 ・検討会時、教員研修の時間をとり伝達講習する。	・岡山大学入試問題解答解説集は、例年より早く完成し、夏休み前には余裕を持って配布できた。大阪はまだの教材がある。 ・7月の検討会では、ベネッセ・河合塾の研修会に参加した教員により、今春の入試の総括を伝達講習した。	B	・大阪大学のファイルは1教科についてできていない部分があり、完成に至っていない。 ・12月の検討会では、ベネッセの「低学年の指導」についての伝達講習を行った。	B
	総務企画課	・授業アンケートの形式と項目内容を検討し、改善する。	・授業アンケートを見直し、改善できた。	・昨年度までの講義形式と実習形式に分けてのアンケートを見直し、一本化することができた。	A	・講義形式と実習形式のアンケート項目を一本化し共通させることで集計しやすくなった。	A
	文化課	・図書館の利用状況を把握して年次団で情報共有を図ると共に、来館者数を増やす取り組みをする。	・図書館に学年別のカウンターを設置し、来館者状況を把握する。 ・図書館交流会をブックカフェ以外にも企画する。	・7月までの来館者は全体では、昨年度より増えていた。利用状況を各学年で説明し、図書館利用を促進するため協力を仰いだ。 ・光風館で実施したブックカフェは、約30人の参加があった。	B	・貸出冊数(12月まで)は、3,577冊で2014年度と同じくらいであった。来館者数(12月まで)は1年で2年、3年の順で増えており、計12,646冊を上回った。3年は貸出冊数でも来館者数も多く、かつ、本を借りた生徒も本を読む生徒が多かった。本の借加者(生徒)を待たず、ササライブの本を借加した生徒も多かった。	B
	国語科	・読解力や表現力の基となる語彙力を付けさせることで、言語活動の充実を図る。	・現代語の単語や古文単語などの小テストを年間20回以上実施する。合格率7割以上。	・概ね7割以上を達成出来たが、不合格になる生徒が固定化しているため改善に努めたい。	B	・合格率は7割以上を維持出来ているが、不合格の生徒が固定化しているため、個別の指導も心掛けたい。	B
	地歴公民科	・思考力の育成のために各種資料、統計、地図などにしっかり向き合う場面を設定する。読み取ったことを表現させる手段を工夫する。 ・他校の公開授業等を見学し、自らの授業にフィードバックすることを心がける。	・各種資料、統計、地図などから読み取ったことを発表する機会を3回以上設ける。 ・平均1回以上校外の公開授業研究授業等を参観する。	・資料科、統計の読み取りは年々重要視されており、問題の精選も含めて従前以上に取り組む機会を設けているところである。校外授業見学等に関しては後期参加予定もあり、年末に総括する。	B	・資料科・統計の読み取りについては各々が授業において意識的に提示・指導を行っている。校外授業見学については四人でのべ4回赴いた。	A
	数学科	・校外研修等への積極的な参加と他教科の授業参観を可能な限り行うことで授業力の向上を図る。 ・岡大、阪大、難関校の入試問題の研究を全員で行い、作問能力や分析能力の向上を図る。教科会議の時間を有効利用し、校内実力考査の作問の質の向上に全員で努める。	・全員が複数回の公開授業を参観する。 ・2回以上入試問題の分析を行う。	・達成できていないので後期に積極的に参加していく。 ・H28 阪大入試については十分な時間を割いて研究を行った。H29 岡大は3月に行う予定。	B	・校内、校外をあわせると授業参観は目標達成できた。 ・阪大2回と岡大の分析で目標達成できた。会議用の空き時間を有効利用して校内実力考査の問題検討もしつかりできた。	A
	理科	・校外の研修講座、公開授業などに積極的に参加し、情報収集をすることで授業力の向上に努める。 ・教科内で積極的に授業見学を行い、指導方法の研究を行う。	・校外の講座、公開授業等に1回は参加した。 ・教科内の授業を参観して、授業力が向上した。	・校外の講座に2名、公開授業等に2名が参加した。 ・6月の授業見学以外でも、互いに参観することができた。	B	・校外の講座にのべ6名、公開授業等にのべ5名が参加することができた。 ・6月、11月の授業見学以外でも、互いに参観し、授業力を向上させることができた。	A
	保健体育科	・活動目標や目標達成のための計画を生徒自身に立てさせることにより、課題探究能力や思考力の育成を図る。	・目標達成に向けて活動計画がきちんとできている。 ・体力テストの結果を踏まえてトレーニングメニューを設定し、継続して行うことができていく。	・選択授業の初めの2～3時間を使い、各グループで単元計画を立てさせることができた。計画立案時には、練習方法や他グループとの連携など、活動の見直しを持たせながら考えさせることができた。	B	・目標に応じた活動計画を立てさせることはできたが、計画の見直しや評価をさせる時間をとることができなかった。 ・トレーニングは継続して、意欲的に取り組ませることができた。	B
	芸術科	・生徒の芸術的価値意識を拡げる授業の工夫を行う。	・年一回以上校外の授業参観、または専門外の分野に関する研修会に行くなどの教材、授業研究を行う。	・後期に一回以上研修や授業研究会に参加する計画がどの科もできている。	B	・校外の授業研究会(音楽、美術)、高教研研修会(書道3回、音楽2回)、大学主催講習会(美術)にそれぞれ参加して、新しい観点や分野への授業の取り組み方法についての研究を深めることができた。	A
	英語科	・授業中の生徒による言語活動を充実させ、言語運用能力の伸長をはかる。	・「コミュニケーション」の授業内で生徒同士の発話機会を設け、自己発話を促すことができた。	・生徒の発話機会は設けているが、自己発話まではまだ引き上げられていないため今後指導していく予定。	B	・授業公開を積極的に行い、生徒の発話に関する指導力向上に努め、成果も出始めている。1～3年次までを通じた発話指導も研究していきたい。	B
	家庭科	・生徒に興味関心を持たせ理解力が向上するような授業内容の工夫をする。	・授業内容をまとめ、教科で共有できた。	・家庭科科目の授業において、お互いいつでも授業参観できる状態である。 ・校内公開授業目においても積極的に授業参観ができた。 ・外部での研究授業等にも積極的に参加できている。	B	・授業内容のまとめは、教科のフォルダーに授業資料の保存・まとめをし、教科で共有する方向で進めている。	B
	授業研究部会	・授業公開と授業研修会(外部講師)の実施。 ・ICT機器の更なる利用促進に努める。	・授業見学やICT活用により、授業力の向上を実感できる。	・6月授業見学はほぼ計画通り実施できた。教科研修会は英・数・保体での実施に向けて準備中である。	B	・年2回の授業見学、英・数・保体の教科研修会ともほぼ計画的に実施することができた。教員アンケートの結果も「授業改善に有益であった」という項目について肯定的な回答が9割を超えている。	B
1年次	・生徒の現状と適性の把握につとめるとともに、進路指導力の充実を図る。	・考査や模試の成績について分かった進路指導に関する知識・技術とビジョンをもつ教員集団となる。	・7月進研模試の分析が全体ではできなかったが普通科では英語の強化が急務であったとの認識が共有でき、年次全体で具体的な取組を立ち上げることができた。考査・模試の結果分析の時間確保に努める。	B	・普通科の英語強化については継続できた。加えて模試と実力考査の成績分析を踏まえて個別の教科指導(国数英理)を開始するとともに、家庭科も含め、個々の希望進路と実態の把握に努め、より効果的な指導・助言ができるようにする。	B	

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題、中間期までにできたこと、できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価	評価
②主体的な学習習慣を中心とした生徒の自己管理能力の育成	教務課	・チャイムと同時に落ち着いた状態で授業が開始できるように、教員・生徒の意識を高めるとともに、チャイムの工夫を行う。	・落ち着いた状態で、授業開始とともに集中して取り組むことができる。	・落ち着いた状態で授業が開始できるように呼びかけ、2年次では2分前着席の習慣化を促し、定着しつつある。チャイムの工夫に関しては物理的な環境を整えてから実施したいと考えている。	B	・落ち着いた状態で授業が開始できるように呼びかけ、2年次では2分前着席の習慣化を確立している。来年度はさらに学校全体での取り組みになるように努めたい。チャイムの工夫に関しては、校内の整備の問題もあり、取り組むことができなかった。	B	
	進路課	・年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。(手帳の有効活用) ・各教科の学習習慣育成の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 ・『進路のてびき』を改訂して発行する。	・家庭学習の時間が普通科は3時間、家政科は2時間を超える生徒の割合が7割を超える。 ・模試の反省会をその都度行う ・夏休み前に発行できる。	・1年次生の学習時間の少なさは深刻。9月調査で、普通科2.3時間、家政科1.7時間(現2年は3.3, 2.1)。 ・校内実力、進研の結果を年次で分析し、進路通信等で生徒に示し指導した。 ・予定通り発行できた。2年次は10月に配布予定。	B	・学習実態調査1.2年次生とも増加傾向。1年次普通科は3時間以上の生徒が11月調査で35%(9月は14%)。2年次普通科は3時間以上の生徒が9割弱で定着している。家政科1年次が2時間を越えない。 ・各年次で、成績を分析、生徒の進路希望を確認する会議ができた。	B	
	国語科	・授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課す。	・課題の期限内提出率7割以上 課題の提出率8割以上。	・期限内に提出する生徒は7割以上を達成出来ているが、期限を過ぎても提出出来ない生徒が複数いる。定期的に声掛けを行いたい。	B	・課題の提出率はまずまずだが、学習内容の乏しい生徒もいる。今後は質の改善を図りたい。	B	
	地歴公民科	・復習の習慣を定着させるため、週末課題の出し方を工夫する。 ・小テストを定期的実施する。	・週末課題を模試等に合わせて課す。 ・単元終了後に小テストを実施する。	・課題は模試等に合わせて課している。単元ごと小テストは、概ね8割以上実施されており、これを継続する。	B	・課題の適正な配布、小テストとも概ね計画通り(8割以上)実施することができている。	B	
	数学科	・毎日課題、週末課題の内容を吟味し、必ず取り組み、提出しなければならないような環境を作り上げる。 ・上位層の生徒が自主的に行う課題を工夫し取り組ませる。	・普通科生徒の9割以上が、数学毎日課題(1・2年次生)や予習・復習などの課題(3年次生)を提出し、数学の家庭学習を毎日1時間以上確保する。進研模試(数学計)全国偏差値60以上が15人以上いる。	・毎日の課題提出率は1年次が90%弱で、2年次は80%程度と今ひとつ努力が必要である。学習時間は目標時間の確保はできている。7月の模試全国偏差値60以上は2年19、3年17だが1年が5と達成できていない。	B	・数値的には達成基準に近いが、期限に遅れたり、内容が不十分であったりするものが多く今ひとつ物足りない。 模試偏差値60以上は11月で2年19、1年12である。(1月は結果待ち)	B	
	理科	・定期的な課題(当日課題、週末課題)の実施と期限厳守での提出を促す。課題の提出状況一覧表を少なくとも週1度は提示し、状況が良くない生徒に関しては随時面談を行い指導する。	・提出率90%以上…A ・提出率80%以上…B ・提出率75%以下…C	・現在の提出率はAが1名、Bが3名、Cが1名だった。	B	・課題の提出率はAが4名、Bが1名だった。課題の提出状況一覧を週1度は提示し、状況が良くない生徒の指導をすることができた。	A	
	英語科	・家庭での学習内容を具体的に提示し、学習習慣の定着を図るとともに、個々の能力に応じた対応をする。	・普通科の家庭学習時間が1時間を上回る。 ・各年次で個別指導をする。	・2、3年次生では1時間を超えているが、1年次では第一回0.9第二回0.8と到達していない。年次とも協力して英語に力を入れる仕掛けを工夫しているので、今後の伸長にむけて引き続き指導する。 ・2、3年次に続き、1年次でも上位層への個別添削を開始する予定。	B	・第四回までの1年次普通科の平均が0.91と1には満たないが上昇傾向は見せている。 ・年末より、1年次にも個別指導を開始することができた。内容も上位、中間層と2種類に分けている。継続指導し、生徒の主体的学習ならびに確かな学力につなげたい。	B	
	家庭科	・社会で通用するマナーを身につけさせる。(「先言後礼」の徹底など)	・「先言後礼などマナーが身についた」生徒アンケート80%以上。	・HRや授業、日々の生活の中で他人に対する心遣いやマナーについて適宜指導している。	B	・生徒アンケートで「先言後礼などの社会に役立つマナーが身についた」1年63% 2年95% 3年100%全体87%	A	
	1年次	・高校生らしい言動(服装髪型・挨拶・言葉遣い・美化・授業態度・生活態度等)ができる生徒を育成する。 ・手帳を活用した自己管理ができるようにする。	・生活面での指導の必要性が減る。欠席人数が1日平均3人以下。 ・スコラ手帳を使いこなせる生徒が50%以上。	・生活指導は大きな問題なくできている。欠席も1日平均約1.3人でまずまず良好である。挨拶と適切な言葉遣いの指導を継続してゆく。 ・スコラ手帳の活用状況が良好で指導段階が1上がった生徒が30%程度。年度末に向けて今回レベルアップしなかった生徒を中心として継続指導していく。	B	・入学直後から比べるといろいろな面で高校生らしく振る舞えるようになったが、更なる質の向上が必要。欠席は1月末段階で1日平均1.8人弱と達成基準はクリアー。 ・後期でスコラ手帳の活用状況が良好で指導段階が上がる生徒数は前期より減少の見込み。達成基準には至らない状況。	B	
	2年次	・手帳を利用しSHRで毎日の振り返りを行わせ、PDCAサイクルの定着、自己管理能力の育成を図る。 ・家庭学習時間の確保と課題提出期限の厳守を指導する。 ・授業規律を確立するために授業2分前着席の指導を徹底する。	・家庭学習時間の平均について(普)3.5時間以上の生徒が80%、(家)2時間以上の生徒が90% ・提出率80% ・授業2分前着席が実践できる	・平均推移は(普)④3.9→⑤3.3→⑨3.6、(家)④2.3→⑤2.0→⑨2.3。目標の生徒割合には達していない。今後、受験生としての意識付けを行い、目標達成に努めたい。 ・課題の提出状況は悪く、指導を徹底していかなければならない。 ・授業2分前着席が実践できている。	B	・平均推移(普)→⑩3.8→①3.9で3.5時間以上の割合が73%(家)→⑩2.2→①2.1で2時間以上の割合が73%となった。改善傾向が見られ健闘している。 ・課題の提出状況は、指導により若干の改善が見られた。 ・授業2分前着席が実践できている。	B	
3年次	・生徒に自己の時間を管理する能力をつけさせ、基本的な生活習慣の充実を図る。	・スコラ手帳に毎日記録をとらせ、コメント記入や面接等で指導する。 ・年2回アンケートを実施し、8割の生徒が「自己管理能力が身についた」と答える。	・SHRや集会時には手帳に情報をメモするように指導している。 ・第1回目のアンケートでは、「自分の生活リズムへの把握」が約70%だったが、「規則正しい生活習慣が身についた」は約55%とやや低い結果となった。	B	・第2回目のアンケート(2月)では「規則正しい生活習慣が身についた」、「自己管理能力が身についた」と回答した生徒が6割であった。当初達成基準には至らなかった。	B	B	

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題，中間期までにできたこと，できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題，できたこと，できなかったこと等	評価	評価
③生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会執行部が年間の活動方針および活動内容をあらかじめ提示することにより，各生徒会行事について学校全体で取り組む意識を高めるとともに，関係の委員会や部活動に働きかけ，学校行事の準備・運営に主体的に取り組む生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒松籟祭実行委員会開催3回以上でA</li> <li>学校行事や校則等を検討する評議員会の開催3回以上でA</li> <li>松籟祭後の生徒アンケートでの「良かった」の回答90%以上でA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒松籟祭実行委員会は5月からスタートし，3回開催できた。よい話し合いの流れはできているが，教員の実行委員会との調整をスムーズに進める工夫が必要である。</li> <li>評議員会は行事の日のスマホ利用について話し合いを行ったが，途中で挫折した。</li> <li>9月までに評議員会を2回開催した。</li> <li>松籟祭後の生徒アンケートでの「総合満足度」の「満足」，「やや満足」の合計95.8%。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期は「サタデークリーンの実施」について評議員会を2回開催した。評議員会活性化については，自主的主体的な話し合いが進んだとまではいえないが，開催回数目標は達成された。</li> <li>生徒松籟祭実行委員会を3回開催した。</li> <li>松籟祭の満足度調査の結果は「満足」，「やや満足」の合計が95.8%と概ね良好であるが，生徒が新たに創造していく余地は少なくなっているため，生徒が「敷かれたレール」を進むだけにならないように注視する必要がある。</li> <li>行事の見直し，精選が必要となってきている部分があるので，執行部員に対しても問題提起していく。</li> </ul>	A	A
	総務企画課	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に地域と交流できる環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄町事業に取り組み，充実に向けて支援ができた。</li> <li>小学校との交流ができる環境を整えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄町事業については，生徒実行委員会4回実施され，生徒の主体的な取り組みとなっている。</li> <li>陸上部を中心に高梁小学校へ出向いての陸上記録会の支援がスタートした。現在1回実施済みで今後4回実施予定である。夏休みに実施された「学習サポート教室学び合い」には本校から23名の生徒が参加し，8/3～8/5の3日間，小学生と学習サポートを通して交流することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄町事業である「地紅茶祭」に約124名の生徒が参加し，生徒が主体的に進行，販売，体験コーナー，展示，ステージ発表等に取り組み，祭を盛り上げた。</li> <li>陸上部を中心に高梁小学校へ出向いての陸上記録会の支援については2回実施することができた。また，陸上記録会応援ポスターを作成し，小学校へ届けることができた。</li> <li>夏休みに実施した「学習サポート教室学び合い」については参加して良かったと答えた生徒が100%で生徒の満足度が高かった。</li> </ul>	A	
	厚生環境課	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化に対する意識の高揚と自主的な行動をめざし，清掃ポスターや古紙回収のポスターを作成し学校内に掲示する。</li> <li>美化委員による古紙回収と清掃点検を隔週で行い，学校周辺の清掃を年2回以上計画を立て行う。</li> <li>昨年に引き続き，緊急地震速報を活用した避難訓練を2回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会によるポスターを作成し，広報できた。</li> <li>隔週で古紙回収と清掃点検ができた。</li> <li>避難訓練が2回以上できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポスター作成にまで至っていない。古紙回収は定着しているが，清掃の徹底が本年度も課題と思われる。後期に入り，ト訓練ができた。後期では火災における避難訓練を11月に行う予定である。イレ詰まりが続いてあった。トイレ掃除が十分にできていないのが現状である。点検簿を作成し，美化委員会に点検させるべく計画を立てているところである。</li> <li>美化委員会による校外清掃活動を後期に予定している。</li> <li>前期には緊急地震速報を使用しての避難訓練を実施した。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員による古紙回収と清掃点検を隔週で行えた。点検結果をアナウンスするには至っていない。清掃への教員の取りかかりに問題があるように思われる。</li> <li>美化に対する啓発活動ができなかった。</li> <li>抜き打ちの避難訓練に少しのミスがあったが2回の避難訓練は概ねよくできた。</li> </ul>	B	
	家政科	<ul style="list-style-type: none"> <li>家政科の縦の繋がりが深まるような「学年縦割りの家政科行事」を，生徒主体で考えさせ実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家政科の行事を通じて家政科の縦の繋がりが深まった」生徒アンケート80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒を中心に6月に1回目の学年縦割りランチ会を実施。11月に第2回目を実施予定。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートで「家政科の行事を通じて家政科の縦の繋がりが深まった」 1年91.4% 2年72.5% 3年97% 全体86.4%</li> <li>3月の特別授業でも学年縦割り行事行う。</li> </ul>	A	
	寄宿舍	<ul style="list-style-type: none"> <li>各寮において，毎週木曜日に反省会を行ない寮における生活の改善を図る。</li> <li>寮長，副寮長と寮務主任等との情報交換を定期的に行う。</li> <li>正確な動静表の作製により生徒の動静を正確につかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省会を計画通り実施した。これにより生活環境の改善が図れた。</li> <li>情報交換会が計画通り実施できた。</li> <li>動静（欠食等も）を正確に把握できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>点呼及び点呼後（木）の反省会を継続して実施できた。</li> <li>動静表の改善に取り組んだ。</li> <li>動静表を元に生徒の動きを把握し食事数の正しい把握に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>反省会を実施した。生徒同士の指摘により生活環境の改善が図れた。寮務主任も出席を心がけた。</li> <li>寮長との連絡が密にとることができ，問題の修正がはかれた。</li> <li>動静（欠食等も）を正確に把握できた。</li> </ul>	A	

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価		
				取り組んだ内容と課題，中間期までにできたこと，できなかったこと等	評価	取り組んだ内容と課題，できたこと，できなかったこと等	評価	評価
④教職員間の情報共有を図り，課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り	教務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>課会議における各係からの事前提案の活発化を図り，内容を充実させる。</li> <li>職員室内のホワイトボードの改善，職員室内の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課員それぞれが問題意識をもち，業務確認のみに終わらない意見提示型の会議ができ，それが実際の場面に活かせる。</li> <li>ホワイトボードが有効活用され，働きやすい環境となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務課員からの意見・提案をもとに業務を行うことにより，共通理解を図りながら自己の役割を遂行できている。</li> <li>昨年度からの課題となっていた職員室内のホワイトボードの改善に取り組むとともに，職員室内の整備を行い，先生方が業務をしやすい環境整備を行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務課員からの意見・提案をもとに，業務を行うことにより，共通理解を図りながら自己の役割を遂行できた。</li> <li>昨年度からの課題となっていた職員室内のホワイトボードの改善に取り組むと共に，職員室内の整備を行い，先生方が業務をしやすい環境整備を行った。今後も環境整備に努めていきたい。</li> </ul>	A	
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週，課会を開き生徒課メンバー間の共通理解を図る。</li> <li>各種様式の整理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>90%以上開催でA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9月までの課会は100%開催できた。</li> <li>様式の整理は，検討継続中である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>課会は95%開催できた。</li> <li>様式整理ができた。</li> </ul>	A	
	進路課	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年次，進路通信を発行し，進路情報の共有化を図り，進路指導の方向性を共通理解する。</li> <li>『進路のてびき』を有効に活用するために，<u>教員・生徒に働きかける。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路通信を各年次10回発行できる。</li> <li>面接週間で『進路の手引き』を使いながら面談し，<u>志望校等の具体的な話が</u>できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次は普家1号ずつ。2年次は7号まで発行。</li> <li>3年次は出願手続きなどを手引きを利用し行っている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年次は13号まで発行している。3年次はセンター試験の前後に4号発行。</li> <li>保護者懇談で『進路の手引き』のデータを示し，現在の学力と合格可能性について話をした。卒業生の合格体験記の引用などは，各年次の生徒を指導する際に役立てることができた。</li> </ul>	B	
	総務企画課	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めの課の行事計画をもとに，各担当で細かい計画を立てて，課内の共通理解を図り，協力して業務にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定通り実践できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに課の細かい行事予定計画表を紙面配布し，見通しをもちながら課内で協力して業務に当たることができている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事計画表をもとに，各担当のキャップを中心に課内で協力して業務にあたることができた。</li> </ul>	A	
	厚生環境課	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒美化委員の清掃点検結果を朝礼連絡で伝え，清掃状況を知らせることにより教職員及び生徒全員での美化意識の高揚に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼で全体に清掃結果をアナウンスできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃点検簿を作成して，美化委員会に下ろしているところ。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>各週での清掃点検簿による清掃点検ができたが，結果の周知徹底ができなかった。</li> </ul>	B	
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次会議や朝礼以外の場でも生徒に関する日常的な情報交換を意識的に行う。</li> <li>担任業務の年次全体での分担（特に手帳チェック）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況を把握し，共通理解のもとチームとして生徒を指導できる。</li> <li>スコラ手帳の点検分担が年間を通してできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活面で留意すべきごく少数の生徒についての情報交換が中心となっている。さらに幅広く情報交換できるようにしたい。</li> <li>各HRに年次付き1名が付いて点検の分担をすることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報交換が不十分で支障が生じる場面はほとんどなかったが，さらにチームとしての機能を高めたい。</li> <li>手帳点検をはじめ協力的に業務に取り組むことができた。</li> </ul>	A	
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼時のこまめな生徒情報の交換，面接カードの利用，課題提出状況をサーバー上での管理等により，生徒が抱える問題点を教員間で共有に努め，協働体制作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年次会での生徒情報の交換が円滑に行える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニ検討会を実施，生徒各自の目標設定を確認している。長期欠席者の欠課時数などはこまめに情報共有している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席者の把握，対応はクラスを超えて対応できた。進路指導の方向性や，現在抱えている問題点などをしっかり共有できている。</li> </ul>	A	
	3年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒や進路に関する情報を年次団全員で共有し，共通理解のもとで生徒の進路実現に向けて組織的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒や進路に関する情報を朝礼時や担任会等で共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路関係の来客や説明会での情報を朝礼時で共有出来ている。</li> <li>生徒情報について，その有無にかかわらず，必ず朝礼時で確認している。また朝礼時以外にも，常に生徒の情報共有が出来ている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路関係の来客や業者説明会，大学説明会で得た情報等は，朝礼時に情報共有できた。生徒情報について，朝礼時に関わらず普段から情報共有できた。</li> </ul>	A	
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して定期的に教科会議を行い，生徒の自主的な学習習慣の確立・指導方法の研究など情報交換・協働体制を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会議を年間10回以上できた。</li> <li>授業の進度や指導方法など教科内の共通認識のもと，指導できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会議を5回実施した。連絡事項については回覧で対応した。</li> <li>指導方法の研究などが，教科内でできていないので，実施したい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会議を6回実施した。連絡事項については回覧で対応できた。</li> <li>同じ科目間では指導方法などについて意見交換をすることができた。来年度は理科としても，共通認識できる部分はしていきたい。</li> </ul>	B	
	家政科	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の家政科の目指す方向性を検討し明確にすることで，家庭科の行事の見直しを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科教員で家政科の方向性について検討できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家政科の各行事の前後に，来年度以降に向けて検討は適宜しているが，行事の見直しまではできていない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家政科の方向性を話し合うことは，各行事後の反省でできたが，決定はしていない。</li> <li>家庭科のキャッチフレーズを考え中である。</li> </ul>	B	
事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務室朝礼及び行事予定表を活用し，事務室内の情報共有を行うとともに，職員会議・職員朝礼で必要な連絡及び情報提供を行う。</li> <li>サイクルの短い人事異動に対応するため，事務引継の標準化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡漏れがない。</li> <li>標準事務引継書を年度末までに完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務室内の行事予定表の活用により，概ね情報共有はできている。また必要な連絡は職員朝礼などで情報提供できている。</li> <li>各員よりの現時点の事務引継書を取りまとめた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務室では，朝礼・行事予定表で情報を共有することができた。校内向けには，職員会議職員朝礼で必要な連絡・情報提供を行うことができた。</li> <li>各員の事務引継書の点検が完了し，年度末には完成できる見込みである。</li> </ul>	A	A	